

## 図書館セミナーを開催しました

医学図書館では、今回で9回目となる図書館セミナー「人体模型 見て触って人体や臓器を感じてみよう！」を平成25年12月25日（水）、211講義室で開催しました。医学科解剖学講座の中根裕信先生が講師で11名の参加でした。

まず、最初に学生さんの要望で今年度加わった呼吸器（喉頭、気管、肺）、男性骨盤内臓器、女性骨盤内臓器、腎臓・膀胱周辺臓器（膀胱、腎臓、脾臓）を紹介していただきました。特に男性・女性骨盤内臓器は、臨床的に重要であるが立体的に理解することが難しく、講義・実習の予習・復習のために模型を活用すると理解が深まると話されました。

次に『病が語る日本史』（酒井シズ著、講談社学術文庫）から、正倉院に約60種類の中東・インド・中国由来の薬草が御物として収蔵されていて、これらの薬草は民を救い国を安泰にするため施薬院で用いられたとの紹介がありました。これらの薬草は現在も漢方薬として使用されているとのことでした。さらに薬草に関連したお正月の話題も紹介され、お正月定番の“お屠蘇”は、「邪気を屠（ほふ）り、心身を蘇（よみがえ）らせる」という意味で、お酒やみりんに数種類の生薬を調合し漬け込んだものが本来のお屠蘇だそうです。昨今はお酒のみで代用している家庭が多いようです。

アンケートには「いつもは本などで学習し、立体的なイメージがつかみにくいので人体模型は貴重な教材です」「漢方の話は興味があり楽しかったです。もっと知りたくなった」などの感想が寄せられました。

セミナー後は、参加者の皆さんに臓器模型を見て、触って、感じてもらいました。今回参加されなかった学生さんも、これらは館内貸出しますので、是非、図書館で人体のイメージをつかんでみてください。



医学図書館2階で  
漢方関係の展示をしています。  
是非ご覧ください！

